

こころを育む総合フォーラム 4事業 全国展開へ

3年間の歩み

「想像を絶する残虐な事件、組織の不祥事、人として守るべきマナーの欠落。私たちが本人が本来持っていたはずの素晴らしい倫理観はどこへ行ってしまったのでしょうか」と、同フォーラムの発起人は遠

危機感共有じつくり議論

山敦子・松下教育研究財団理事長。文科相だった2001年、大阪の小学校で多くの児童が殺傷される事件が起きた。心の問題に取り組む必要を痛感したが、教育行政が

「心育て」実践



では限界がある。経済的には豊かといわれる国で、このまま日本は「心」を失ってしまうのではないかと。同じ危機意識を持っている学界、経済界、マスコミ界などの有志が集まり、16人(別表)でフォーラムを旗揚げしたのは05年4月。のんびりしては行けないが、あえて拙速を避け「21世紀の日本人の心は、どうあるべきか」をじっくり話し合うことから始めた。

フォーラムのメンバー16人 (敬称略、50音順)

- 安西 祐一郎 (慶応義塾塾長)
- 石井 幹子 (デザイン事務所主宰)
- 葛西 敬之 (J R東海会長)
- 金澤 一郎 (日本学術会議会長)
- 佐々木 毅 (学習院大学教授)
- 滝鼻 卓雄 (読売新聞東京本社会長)
- 張 富士夫 (トヨタ自動車会長)
- 遠山 敦子 (松下教育研究財団理事長)
- 永井多恵子 (前NHK副会長)
- 中村 邦夫 (松下電器産業会長)
- 中村 桂子 (J T生命誌研究館館長)
- 野依 良治 (理化学研究所理事長)
- 本田 和子 (お茶の水女子大学名誉教授)
- 三村 明夫 (新日本製鉄会長)
- 山折 哲雄 (国際日本文化研究センター名誉教授)
- 鷲田 清一 (大阪大学総長)

各界の有識者16人が「日本人の心のあり方」を考えた「こころを育む総合フォーラム」(座長 山折哲雄・国際日本文化研究センター名誉教授)が、昨年1月にまとめた提言に基づいていよいよ全国運動を展開することになった。家庭、学校、地域、企業が一体となって「こころを育む活動」に取り組むために、「呼びかける」「紹介する」「ほめる」「広める」の4事業に取り組み方針で、優れた活動の募集・表彰も行う。フォーラム設立から3年余、メンバーは真剣な議論を積み重ねてきたが、実践段階を迎えた民間主導の「心育て」運動は各方面からの注目を集めている。これまでの経過を振り返り、運動の内容を紹介する。

だれもが、子どもの心が健やかに育まれることを願っている(東京・豊島区立みらい小で)

今後 4つの柱

呼びかける 紹介する ほめる 広める

この提言の内容が新聞報道や冊子、同フォーラム事務局(松下教育研究財団)のホームページで知られると、全国の教育現場などから問い合わせや賛同の声が相次いだ。フ

フォーラムでは昨年春から今春にかけて、さらに2度の早朝会議と1回のシンポジウムを開催。提言に基づく全国運動をどのように展開するかを話し合ってきた。

全国運動を呼びかける記者会見は先月25日、東京・日比谷の日本記者クラブで行われ、山折座長が運動の概要について、遠山理事長が具体的な進め方のポイントについて説明した。

全国運動の要旨

- ① 呼びかける事業
 - ・パンフレットやホームページを作成し、運動の趣旨を多くの人に知らせる。
 - ・提言を普及させ、広く社会に参加を呼びかける。
- ② 紹介する事業
 - ・「こころを育む」活動の事例集やエピソード集を作成し、広く一般化できる例や特色のある事例を集めて紹介する。
- ③ ほめる事業
 - ・PTAなどのほか、一般を通じて多彩な活動例を募集する。
 - ・他の活動の参考となるような事例を表彰する。
- ④ 広める事業
 - ・全国で多彩な活動を行う団体のネットワークづくりをする。
 - ・シンポジウムや全国キャラバンを実施する。

活動事例募集開始

手始めに、全国の個人や団体が「こころを育む」活動の事例を募集開始

提言の要旨

- ① 「家庭」を見直そう
 - ・子供に自分は大事にされているという体験をさせよう。
 - ・子育てにもっと高い社会的評価を。子を育てることは社会を根本のところで育むことに通じる。
 - ・母親を孤立させない仕組みをつくろう。厚い社会的援助があってこそ、子をのびのびと育てられる。
- ② 「学校」を見直そう
 - ・学校を生きるための力を身につける場にしよう。教師と保護者が力を合わせて学校をつくろう。両者が責任を問合う現状からは信頼は生まれない。
 - ・「いじめ」は子どもたちの閉じた集団で起こる。教師、あるいは地域の大人たちは外の風が入るようにやらねばならない。
 - ・「地域」にできること
 - ・学校は地域の大人たちを招こう。大人たちは、どんな仕事をし、どんな楽しみを持ち、どんなことに悩んでいるかを語ろう。
 - ・子どもの視点に立ったまちづくりを。子どもがのびのびと暮らせる地域づくりを真剣に考えよう。
- ③ 「社会」「企業」に対して
 - ・子どもたちに、世界には思いどおりにならないものがあると教えよう。生命の重みを教え、足るを知ることを、他者を尊重することの重要性を教えよう。
 - ・企業も地域での子どもたちの「育み」を担おう。「市民」としての社員教育にも取り組む必要がある。

記者会見で全国運動を呼びかける山折(左)、遠山の両氏(6月25日、東京・千代田区で)



活動の事例募集が始まった。応募の条件は、こころを育むことが目的で活動の仕方を「進める」「広げる」を経て「全国大賞」以下の各賞

が決まり、来年3月に表彰が行われる(応募締め切りは10月31日)。一方、自治体や団体の要望を受けて今夏から「全国キャラバン」も始まる。まずは8月19日に高松市の香川県民ホールで、同24日には北海道・北見市芸術文化ホールで、それぞれ山折座長が講演を行い、高松会場では遠山理事長らも加わったパネルディスカッションも行われる。問い合わせ・応募先は、〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ロ11レビル 松下教育研究財団内「こころを育む総合フォーラム全国運動事務局」(☎03-5521-6100、ホームページは<http://www.kokoro-forum.jp>)。